

日 時 令和 7 年 3 月 3 日 (月) 午後 3 : 00 ～
場 所 水戸市役所本庁舎 4 階 政策会議室

市政モニター提言書発表会 議 事 録

○司会

本日は、お忙しい中御出席いただきまして、ありがとうございます。

それでは、ただいまから、市政モニター提言書発表会を始めます。

初めに、高橋靖水戸市長から御挨拶申し上げます。

○高橋市長

皆さん、こんにちは。

大変お忙しいところ、雪にもかかわらずこうしてお集まりをいただきまして、ありがとうございます。

また、皆様方には、市政モニターとして、1年間活動をいただきましたことにも、心から御礼と感謝を申し上げたいと思います。

今日から議会が始まり、今議案の説明をしまいいりました。今回ボリュームのある内容となっております、1,200億円を超える予算になっているのですが、大変厳しい財政状況の中でも、子育て政策を優先的に重点配分していこうということで、小学校の給食費の完全無償化を始めたり、それから、フリースクールを、一部の小学校まで拡張し始めたり、それから、ハードについては、避難所にもなる体育館へのエアコンの設置の予算をつけさせていただくとか、それから、放課後学級の増設をさせていただくとか、それから、障害児の放課後デイサービスに関するニーズや障害者の給付金がものすごい勢いで増えているという状況があることから、しっかりと分析しながら障害者に対する様々な支援策をしっかりと講じていかなければならないということを思っています。

果たしてこの予算だけでいいのかどうか、今、必要なお金がものすごく増えているという状況にはあるのですが、その体制の構築も必要なかなと思います。特に、学校においては特別支援教育の教室が足りなくて、分割してやっているところがあったり、あるいは、スクールソーシャルワーカーとか、スクールカウンセラーとか、本来ならば国とか県に用意していただきたいという思いもあるのですが、いくら要望しても動いていただけないというところがあって、つくば市は先進的に自前でやっているという状況を踏まえ、水戸市も今、自前で専門職をお願いしたり、総合教育研究所から、教員のOBの皆さんをお願いしたりして、人員体制を整えているとか、そういった人の手当てもやらせていただいているところです。

令和7年度については、おかげさまで税収が史上最高額になる予定で、大体450億円ぐらいになって、30億円ぐらい増えるのですが、それよりもやることほうが増えてしまっていて、税収増ではカバーしきれないくらいやらなければならない政策が増えているという状況にあります。

ただ、そうは言っても、皆さんの市民生活をしっかりと維持し、向上させ、生命と財産を守っていくという私たちの大きな責任と役割がありますので、厳しいながらも予算の重点配分をしっかりとやって、優先順位を決めながら、何でもかんでも全てやれるという大風呂敷は広げられませんが、そこは重要な部分からしっかりと手当てをして、メリハリのついた政策をしっかりと遂行していければなと思っています。

だらだらやっていくと中途半端にしか進まないの、特に子育てと教育にそれぞれ重点配分をしていくということでやらせていただきたいと思っています。

ただ、百点満点の状況ではないものですから、数年かけていろいろな環境整備をしていか

なければならないと思っています。

併せて、これは教訓なのですが、八潮市で起こった陥没事故ですが、これは他人ごとではございませんで、水戸市でも、小さくて人的被害がなかったからまだよかったのですが、大工町で同じようなことが起こって、1か月ぐらい、通行止めにした経緯があるのです。これから本格的な復旧が始まるのですが、40年、50年を超えている上下水道の管路がいっぱいあって、去年か一昨年か、大洗町では1週間ぐらい止まってしまったのでしょうか。いわゆる本体というか、大元がだめになってしまって、それで止まってしまったということがあって、うちから給水車が行ったということがありますが、あれも他人事ではなくて、インフラの整備にもお金をかけなければならないということであるものですから、その辺の予算のバランスをとるのが難しい。特に上下水道は皆様の生活の根幹に関わるものですから、1日も止めるわけにいかない。それが事故があつては大変だということで、今までは水の流れる音を耳で聞いたり管を叩いてその音で異常を見つけたりする状況だったのですが、令和7年度からは、AIを使って、それで全部点検をするという技術的なことも取り入れて、効率よくやっていきたいなと思っています。

いずれにいたしましても、そういった事故が起こらないように、きめ細かく点検もしていきたいと思っています。

そういうわけで、あれやこれや、やらなければならないことが多い中で、どのように最善を図っていくか、また皆様方のお声をいただきながら、今日の提言もしっかり受け止めながら、市政運営にしっかり邁進していければと思っています。

今日は限られた時間でございますが、皆さんの中身の濃い意見交換会とさせていただいて、市民の皆様方の福祉の向上や水戸市の発展を導き出していければと思っています。

この1年間、皆様方にお世話になりましたことに心から御礼と感謝を申し上げて、長くなりましたが、冒頭、まずは私からの御挨拶にさせていただきたいと思います。

今日は、大変お世話になります、どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

○司会

ありがとうございました。

ここで、水戸市の出席者を紹介させていただきます。

市政モニター担当部署である市長公室みとの魅力発信課長のほか、市民相談室職員一同でございます。よろしくお願いします。

また、市政モニターの皆様の提言に関わる関係各課長等も同席させていただいております。市の出席者は、以上でございます。

よろしくお願いいたします。

続きまして、本年度、市政モニターの皆様が作成した提言書を、代表の市政モニターの方から、市長へ提出していただきます。

○市政モニター代表

今年度市政モニターの〇〇と申します。

私たち市政モニターは、「水戸市の移住・定住促進に向けたまちづくり」をテーマに、1年間活動してまいりました。

水戸市を魅力あるまちとして、さらに理想のまちとするため、活動が続けてまいりました。
ここに理想のまちとするための提言書を作成いたしましたので、お渡しさせていただきます。

少しでもお役に立てれば幸いです。

〔提言書手交〕

○高橋市長

しっかりお預かりさせていただきます。

○市政モニター代表

よろしくお願いします。

○高橋市長

ありがとうございました。

○司会

ありがとうございました。

それでは、ここからは、市政モニターの皆様から、市長に対しての提言の発表を行っていただきます。

発表の順番は、提言書の記載順で行っていただきたいと思います。

それでは、【提言１】「社会的養護をうけ、子どもが最善の利益を得られるまち」、続けて【提言２】「Pre-primaryからはじまる学修支援」について、順に発表していただきます。

それでは、お願いいたします。

○発表者１

提言書は20ページから、よろしくお願いいたします。

とても緊張していますので、皆さん、温かいお気持ちで見ていただけたらと思います。

「社会的養護をうけ、子どもが最善の利益を得られるまち」というものを提案いたします。
まず先に、社会的養護、そして里親という言葉ですが、社会的養護とは、「保護者のない児童、保護者に看護させることが適当でない児童を保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うこと」と定義されております。

今回は、家庭への支援ではなく、子どもの支援についてのみ言及させていただきます。

また、里親ですが、養育里親、養子縁組、親族里親に分けられます。この提言では、養育里親を前提にお話をさせていただきます。

私が理想とするまちは、子どもが家庭的な環境で生活できる、つまり、家庭養護を重視しています。

また、里親は、社会的養護のプロとしての高い意識を持って取り組んでおります。

血がつながっているかにかかわらず、親と子という関係の中で愛着形成がなされ、里子は安心感や他者への信頼感、人や地域への愛着、将来への希望を持って成長することができています。

理想のまちをかなえるための目標ですが、まず、里子がずっと家という環境にいられることです。

次に、里子が人に愛着を持てること、そして、里子が地域に、つまり水戸市に愛着が持てることです。

里子が家庭養護を受けるためには、十分な数の里親が必要です。里親の数が増えると、里子のマッチングがしやすくなる、里子にとって最大のベネフィットが生じます。

現状、里親の数は不足しているわけではありません。しかし、里親さんの中には、里子を選んでしまう方もいらっしゃいますので、3歳未満の女の子はマッチングがしやすく、そうでない子どもは難しいということも耳にします。

それから、里親さんの養育スキルに懸念があるということもあります。

このように、データ上では十分なように見えても、委託できない里親も意外と多いという少し複雑な問題も抱えていますので、まずは里親の母数を増やし、その中で里子ちゃん一人一人に合う里親を探していく。そのためには、養護を必要とする子どもの数倍の里親の数がようになる。子どものために用意される選択肢は多ければ多いほどいいということです。

里親の数を増やすためには、現行の里親手当に加えて、条件付きで追加支給することが効果的と考えます。

条件は、1年に2回以上、社会的養護に係る研修会に出席していること。常に勉強して、養育の知識やスキルをアップデートしているかのチェックです。

里親会に入会し、里親同士のコミュニティに属し、活動していること。これは、里親の家庭が孤立しておらず、オープンな家族システムかどうかのチェックです。

過去に不適切な養育を行っていないということは、当然必要な条件です。

次の目標は、多くの里子が人に愛着を持つことができるまちです。愛着形成には、里子とその養育者が深い関係を構築することが不可欠で、そのためには、質の高い養護・養育が求められます。適当に食べ物、着るもの、寝る場所を用意するだけはいけないからです。

質の高い養育のためには、養育者である里親自身の心身の健康を保つこと、そして、里親としてのモチベーションを保つことが大切です。

課題解決の取組として、里親の健康を保つために、レスパイトを推進します。ここで重要なことは、里子にはレスパイトを知られないようにうまくやってほしいということです。自分のせいで里親さんが疲れているなんてことを子どもに思わせてはいけないと思います。

モチベーションの維持には表彰システムが有効です。表彰というのは、大きなコストもかけず、相手の承認欲求を満たし、相手に自信をつけさせる優れたシステムだと考えます。

養育期間に応じてランクづけをすることもよいアイデアが出せたと思っています。

最後のトピックです。

地域との愛着形成のためには、里子がまちから大切にされているという感覚を持つことが目標になります。

水戸市というまちから私という一人の人間はちゃんと認識されていて、大切にされている、こういう感覚が持てることでまちへの愛着がつくられます。

子どもにとって特別なイベントであるクリスマス、お正月、お誕生日で水戸市からプレゼントがあるといいと思います。

クリスマスプレゼントは、できれば、みな同じものではなく、あなたはこれ、あなたはこれというふうに一人一人異なるものがよいです。一人ずつ違うプレゼントだからこそ、里子の中の一人ではなく、私という一人の人間が認識されているという思いにつながります。

クリスマスプレゼントは、こういう水戸市の職員さんと分かる服装の人が水戸市と分かる

車でやってきて手渡しをしてくれます。子どもたちへの水戸市のアピールになります。

お年玉なのですが、お年玉の名前もちろん水戸市です。水戸市から現金をもらったという強烈なインパクトになると思います。

お誕生日プレゼントですが、お誕生日には、アクアポルタの食べ放題を用意していただきたいです。通常、お誕生日会はたくさんの御馳走が用意されて、家族や友人とお腹いっぱいになるまで食べて楽しみます。その経験を水戸市がプレゼントします。きっとお友達に自慢できる思い出になると思います。

水戸市は、出生数を増やす政策と同時進行で、生まれてきてくれた全ての子どもを大切に、素敵な大人になれるよう、幸せな暮らしができるよう育てる、そういう魅力があるまちになります。

これで1つ目の発表を終わらせていただきますが、私、もう1本ありますので、あと7分、お付き合いいただければと思います。よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

○司会

〇〇さん、ありがとうございました。

では、続いて、【提言2】の発表をお願いいたします。

○発表者1

2つ目です。よろしくお願いいたします。

提言書は24ページからでございます。

提言書の内容は、Pre-primary(小学校に上がる前)からはじまる学修支援についてです。

理想とするまちは、領域依存的な才能を持つ子ども、特定な分野への特異的な特別優秀な能力がある子どもたち、その才能を伸ばすための環境が充実しています。

特定の分野への極めて高い能力がある子どもは、俗にギフテッドと呼ばれています。

ギフテッドで有名なのは、将棋の藤井聡太さん、筑波大学の落合陽一先生、テスラのイーロン・マスク、そして、台湾のオードリー・タン。オードリー・タンは、新型コロナウイルスのパンデミックで、世界中でマスク不足による大混乱が起きたときに、マスク供給の管理システムを構築・運用することでその混乱を素速く終息させました。

今紹介した4名は、頭がいいという共通点があり、ギフテッドというこういった方々がよくイメージされますが、右下の子は絵の才能に特化したタイプです。頭のよさや何らかの特定の能力が高い方もいますし、全ての能力が総合的に高い方もいらっしゃいます。

そういったギフテッドの子どもたちのために、飛び級や各自の才能に特化した専門的なクラス、オンライン学習などがあるといいと思います。

これらを特別教育と呼び、理想のまちでは特別教育が充実しています。

さらに、子どもたちは就学前の早い段階で才能に気づいてもらうことができます。

ギフテッドは、2E型といって、発達障害を併せ持つ方も多く、その障害や特性の部分にのみ注目されてしまい、才能に気づかれないことがあります。

また、頭が良すぎて3歳や4歳の頃から周囲との差に気づき、周りのレベルに合わせて身を隠しながら生活していく子どももいるそうです。

しかし、理想のまちでは、大人が子どもの才能を見つけられるシステムがあり、見つけら

れるような関わりをします。

そして、ギフテッドかもしれないと気づいたときに、相談できる存在であるチューターがいます。チューターがギフテッドの子どもと専門家をつなげる役割を担いますので、子どもや保護者は望む教育環境を選ぶことができます。それにより、子どもたちは楽しみながら学習し、才能を伸ばしていきます。

このまちに住むギフテッドの子どもは、まちからサポートを受けることで、自信に満ちた大人に成長し、功績を残していきます。

それがまちの魅力となり、特に子どもの教育に関心がある御家庭が水戸市に転入してくるので、移住・定住が促進されます。

目的を達成するための課題として、4点、挙げました。

特別教育を受けられるように国に法改正を求めること、ギフテッドの子どもと特別教育を結ぶシステムをつくること、大人の理解を深めること、ギフテッドに気づく場をつくることです。

法改正を求めるに当たり必要な要望書の内容は、小学校への早期入学、義務教育における飛び級の制度、ホームスクーリングです。

ギフテッドの子どもと特別教育を結ぶシステムは、水戸市の職員さんがキーマンになります。まず、職員さんが、それぞれの専門分野について、子ども向けの教室を開講してもよいと手を挙げてくれた人のリストを作成します。

ギフテッドの子どもの関係者や保護者は、この子はもしかしたらと気づいた時点で、その子と親の同意の下、市に情報提供をします。その情報に基づき、市はギフテッドかもしれない子どものリストを作成し、リストにある子どもと家族に情報提供や相談対応を行います。

そして、特別教育を行う専門家と子どもをつなげたり、調整したりするチューターとなり、サポートをします。

専門家や特別教育が子どもに害をなさないように、市は子どもの状況や特別教育について定期的に観察、つまり、監査を行います。

才能ある子どもが特別教育を受けられるように、ギフテッドの子どもに対する大人の理解を深める必要があります。

保育士などを対象に、領域依存的な才能の有無について観察してもらいます。

心配なことは、芸術やスポーツの才能であれば分かりやすく、見つけやすいと思いますが、IQが高く、目立たないように気をつけている子であれば、普通の大人では太刀打ちできないのではないかということです。ですので、まずは領域依存的な才能の理解を深める研修を行うことで、ギフテッドについて知ってもらうことをとっかかりにしたいです。

保護者向けには、高IQやギフテッドという単語の認知度を高めます。

その単語が頭の片隅に残ってくれば、自分の子どもがほかの子どもと違うかもしれないと悩んでいる保護者に気づきを促すこともできるのではないかと思います。

最後に、この子はギフテッドかもしれないと大人が気づく場をつくることです。

その場とは、特別教育の一つである専門的なクラス、教室を指します。無償・有償は問わず、開講してくれる専門家に一任します。

専門的なクラスは様々で、種類は多いほうが好ましいと考えます。

教室の開催者は、その分野を得意とする人で、水戸市が運営に関する事務処理を手伝ってくれますので、開講者は教えることに専念できます。

教室の開催者は、子どもたちの中で特に優秀な子どもがいなかをチェックします。

これらの取組により、ギフテッドの子どもを見つけ、育てていくまちとして、水戸市の魅力が広まっています。

高橋市長さん、市役所の職員さん方、御清聴ありがとうございました、というのはもちろんなのですが、私のぼんやりとした思いつきを形にするため、根気強く、きめ細やかなサポートをしてくださった担当者さん、本当にありがとうございました。

このような貴重な機会を、ありがとうございました。

○司会

〇〇さん、ありがとうございました。

それでは、ここで、発表を基に、市長と懇談をしていただきます。

3時40分までをめどに懇談していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○高橋市長

〇〇さん、ありがとうございました。

ギフテッドというのは、私は事前打ち合わせのときに聞きましたが、ある意味初めて聞く言葉でございまして、イーロン・マスクさんとか、その背景は分かっていたのですが、このような方をギフテッドと呼ぶとはちょっと知りませんでした。そこは不勉強で、申し訳ございませんでした。教えていただいて、ありがとうございました。

いろいろ提案をいただきましたので、今後の福祉政策に反映をさせていくというか、今すぐ、はい、やりますというような代物ではないものですから、検討はさせていただきたいと思います。

私たちはすぐ否定的なところから入ってしまうのですが、いろいろな方々のバランスをとらなければならないで、そのところだけ、逆に市民側から見た場合に教えていただきたいのですが、例えば、私たちがいろいろな生活を支援している方はいらっしゃるのです。生活保護もあるし、それから、一人親家庭の皆さんで、児童扶養手当を出させていただいている方もいるし、また、準要保護世帯の方々もいるし、児童手当も少し増額して支給される方もいらっしゃるのですが、旧来の制度を受けている方々と、今回の提案をいただいて、水戸市が1か月10万円とか、そういう支援をさせていただくといった場合に、その方々とのバランスはどうなのでしょうね。

というのは、この間たまたまラジオを聞いていて、里親に取り組んでいる女性がゲストで来られて、私、いつもFMばるるんを聞きながら車を運転しているのですが、1人の里親をやっていて、もう1人増やしたいというか、お預かりしたいのだ、みたいな。要は、本当の里親になってしまうのではなくて、その方の名前と子どもの名前とダブルネームでちゃんと表札に書くという里親の制度を利用して、今、1人お預かりしているのだという話を運転しながら聞いていたのですが、経済的に不幸ではないような話を聞いていたのですが、その辺のところのバランスがどうなのかなと思ったのです。

お金の問題ばかり言うと申し訳ないのですが、生活に困っている方で、生活保護などを支援している。一方で、その額よりもちょっと多めの額をこちらの方々に出させていただくと

いう、このバランスはどうなのでしょうね。どういう観点なのでしょうね。そういうのを逆に皆さんに教えていただければと思います。

○市政モニター

真剣に考えていただいて、本当にありがとうございます。

ここで書かせていただいた金額というのは、私もお金に関してはかなり疎いものですから、幾らぐらいが妥当なのかという具体的なビジョンを持って述べさせていただいているとはいえないかなと思います。

手当というのは、あればあるほど、例えば、仕事を持っている人であれば、仕事を一旦セーブして、ないし退職して里親ということに専念することができるというメリットがあると思います。

ただ、市長さんがラジオでお聞きになったように、現状、決してお金に困っているということはないのかなと思いますので、手当がなければ里親が増やせないのかといたら、決してそうではないな、あったらいいなくらいの話です。

あと、バランスということですが、今、生きるということにお金がなくてすごく難しい思いをしていて、そこに対して、市なり県なり国なりが福祉としてサポートをするというのは当然必要なことだと思いますし、そういうところが行政の役割なのかなというのを、今回市政モニターを経験させていただいて、学ぶことができました。

ただ、子どもたちというのは、お金がないというよりも、そもそも生きることがすごく難しい思いをしている子どもたちだと私は思っているのです。その子を温かく保護していくためには、里親がどうあるべきかというのは考えていくべきかなと思いますので、里親の心身の健康、モチベーションの維持、そのあたりをしっかりサポートできるようなまちになるといいのかなと思いました。

○高橋市長

ありがとうございます。

ラジオで聞いていて、里親になるためのハードルはすごく高くて、相当きちんとした家庭でないと多分なれないみたいな話をされていたのです。そうすると、逆に相当レベルが高い御家庭でないと里親にはなれないので、ある意味、幸せになれるのだろうなという単純な思いもあったのだけれども、ただ、本当に経済的なことばかりではなくて、2歳、3歳でお預かりしても、ある一定の理解が得られる年齢になったときに、あなたは私の子どもではないのですよということをきちんと言うというのです。

それを基にまた一緒に生活が始まるということみたいなのですが、何をもって幸せかというところなのだと思うのです。だから、里親は審査で経済的な部分をクリアしないと多分だめなのだと思うのです。ただ、相対でやる里親はどうか分からないですが、審査が必要なものは経済レベルなども問われるのかな。ちょっと分からないですが。

あとは、お金の面ではなくて、〇〇さんがおっしゃったいろいろな面で果たして幸せかどうか、そこはもしかすると里親の御家庭と行政で関係を構築していないから、何かしら行政が連携するようなことはあるのかもしれないですね。

私は深くその方々とお付き合いしたことがなくて、私は水戸ライオンズクラブに入っているのですが、みどり園という施設があって、そこの子をディズニーランドに連れて行ったり、

それから、茨城町にもう一つ支援するところがあって、ブドウ狩りなどを一緒にやって遊んだりしたのですが、なかなか言葉で言うのは難しいのですが、ちょっと気づくところもあるのです。いろいろと不幸を抱えているのが見えてくるところがあるのです。

だから、行政は関わりを持っていなかったから、今言われて見れば、そうなのかなと。里親は、市町村との関わりはあるのですか。里親の担当は県なのですか。

○子育て支援課

担当部局としましては、茨城県の青少年家庭課になりまして、そちらのほうで里親を県内2か所の施設に委託をして、里親の研修などを行っているような状況でございます。

○高橋市長

そうすると、あまり市町村での関わりというのではないから、誰がどういうふうに里親になって、そういう方が何件ぐらいいらっしゃるかというのは、水戸市ではあまり分からないのですか。

○子育て支援課

そうですね。こちらは、養育里親とか、専門里親とか、養子縁組とかあって、御提案があったのは恐らく養育里親だったと思うのですが、それ以外に全て含めて、県全体では443組いらっしゃるのですが。

○高橋市長

それは毎年ではなくて、現在のところですか。1年に443組成立するのですか。

○子育て支援課

令和6年3月31日現在で登録しているもので、年々増えている状況でございます。

○高橋市長

そうすると、単純計算すると、人口割りからすると大体10分の1だから、水戸市に40組ぐらいいらっしゃるということが想定されるね。

○子育て支援課

そうですね。恐らくそのくらいはいるのではないかと思いますのですが、実際、水戸市に何人いるかというのは、以前、県のほうにお尋ねしたことがあるのですが、回答いただけていない状況でして。

○高橋市長

守秘義務か何かあるのかな。

○子育て支援課

どうなのでしょう。

○高橋市長

そういうわけで、里親と地方行政との関わりがなかったから、私たちが関わることによって、経済的なものもあるし、心の面もあるし、あるいは成長とか教育とか、そういう部分で支援できる部分はあるのかな。今、言われてみて、今まであまり関係がなかったから、ある意味、私たちにとっては新しい分野になってくるのです。うちが中核市になっても、その部分は移譲されていないので、引き続き県の話なのでしょうけれども、これは宿題だね。私どもは、今何と申し上げていいのか、今まで役所との関わりはなかったということなので、そこが役所との関わりを持つことによって、子どもたちがよりよい方向に行って、将来、水

戸市や茨城県を担う人材として心身ともに健やかに育ていただければありがたい。

ただ、その関わりが今はちょっと想像できないものだから、少し新しい提案だから、研究してみるといいよね。それで子どもたちが一人でも幸せになって、誕生日に何かプレゼントが届くとか、そんなにお金がかかるわけでもないの、気持ちの面で幸せを感じてくれるのだったら、それはそれで子どもたちの支援になるし、子どもの居場所づくりにもつながってくるからね。里子たちへの支援という感覚がなかったので、まずはいろいろと研究をさせていただきます。

無知で申し訳ございません。今まで関わりがなかったということで、いい気づきをさせていただきました。ありがとうございました。

もう一つ、ギフテッド、要は、通常のエリート教育ではないのでしょうか。

これは名前を出しては申し訳ないですが、茨城県が優秀な高校を全部中高一貫校にしてしまっ、教育界から結構批判を受けたじゃないですか。公立でエリート教育ばかりやるのか。エリートばかりつくるのか。県立という立場から、幅広に見ていくべきではないかと教育界からいろいろ言われた経緯があったのです。

それがいいか悪いかは正直言って、今、私は答えを持っているわけではないのですが、そういう単純なエリート教育ではなくて、この人たちは別な方向で伸ばしてあげると社会にとっていいという結論なのですよね。

○市政モニター

そうですね。というよりは、明らかに秀でている子どもをちゃんと保護しましょうということです。

○高橋市長

いらっしゃるのでしょうかね。うちは今まで、そういう子に出会いましたか。

○教育研究課

今、ギフテッドのお話で、全般的な分野で高い能力という部分につきましては、優秀な子というのは、もちろん水戸市内にたくさんおりますので、学力が高い、また、運動能力の高い子というのはおりました。

ただ、その子がギフテッドかどうかということに関して、学校で調べるとか特別扱いするとか、そういうことはございませんでした。

特異な才能を持っているが発達障害を併せ持つ子というものにつきましては、現在、特別支援学級に1,000名近くの子が在籍しております。ただ、その中で、IQが特段高いという子につきましては、現在、水戸市内ではないというところでございます。もちろん、IQが比較的高い子で特別支援学級に入っている子はおりますが、ギフテッドに値するような、特別そこが秀でているという部分につきましては、特別支援学級に入るには、就学相談会等で検査等も行うのですが、その部分については、今のところ、出会えていないというのが現状でございます。

○高橋市長

いわゆるギフテッドというのは、発達障害を抱えていて、何か一つに秀でているという人はギフテッドで、例えば、発達障害ではなくて、何でもできる人っているじゃないですか。何でもできていて、全部に優秀だけど、ものすごくそこだけできるという人たちはギフテッ

ドとは言わないのですか。

○市政モニター

ギフテッドの定義は明確に決まっているわけではないので、例えば、イーロン・マスクみたいにめっちゃう頭がいい人とか、スティーブ・ジョブズとか、そういった人たちは明らかにIQが130以上とかでギフテッドに含まれるみたいなの。あとは、芸術の才能であったり。

あと、発達障害を併せ持つかどうかというのは、そういうパターンもあるよということです。

○高橋市長

それは関係ないわけですか。

○市政モニター

関係ないです。

ギフテッドって、そんなにたくさんいたら、それってすごいことなので、だから、そんなことではないのですよ。

○高橋市長

なるほど。今まで水戸市ではいらっしゃらなかったんだ。幼稚園のときからすごくてきってしまうとか。

○市政モニター

多分ですが、IQが高いということに関しては、隠すので、分からないのですよね。

○高橋市長

でも、私たちが小さい頃はIQのテストをやらされたけれども、今はやらないのだ。

○教育研究課

就学前健診でIQはやっております。

○高橋市長

130とか150という子はいないのですか。

○教育研究課

残念ながら、そこまではまだお会いしておりません。

○市政モニター

私の知っている限りなのですが、本当に頭のよい子って、幼稚園、保育園のときから自分が頭がいいということが分かるのですよね。だから、IQテストに関しては、周りのレベルと合わせていたということです。

○高橋市長

そこまで気遣うぐらいIQが高いんだ。

○市政モニター

そうなんです。なので、まず見つけることは難しいでしょうね、というような段階ではあります。

そういう子がもし出てきた場合、小学校とかに無理矢理通わせるよりは、ホームスクーリングとか整備して、その子がやりたい勉強をやらせてあげるといいよねというような提案です。

○高橋市長

分かりました。これも新しい一つの提案です。公立学校はそういうことは想像しないじゃないですか。皆さん、公平に同じようにということで、県がエリート教育をやり始まって、少し批判をされて、やっぱりそうだよな、うちの公立の役割というのは、上から下まで、上の子は伸ばしてあげる、下の子はきちんと底上げしてあげる。今、水戸市で習熟度別学習をやっていて、学力サポーターを各学校に配置して、なるべく伸ばす子は伸ばしてあげよう、苦手な子は何とか底上げしてあげようという両立てで公立学校の中を見ていたものですから、IQの高い方々を別なステージに行っていただいて、もっともっと伸ばして育て上げようという価値観が今まで教育の中に公立学校としてはなかったものですから。

池田議員、元学校の先生として、どうですか。

○池田議員

育成ですよ。難しいですけどね。

日本のエリート教育って進んでいないなというところは感じるころではあるのですが、小学生から公立でそういうのをやっていくというのは結構難しいかなとは思っているのですが、そういう子が埋もれてしまっているというのは現実なので。

○高橋市長

発見すれば、別なステージで活躍してもらような仕組みとか制度とか環境とかがあったほうがいいのかな。

○池田議員

そうですね。

逆に〇〇さんにお聞きしたいのですが、ほかの国とかで、そういういい事例とかあるのですか。それをお聞きできたらと思います。

○市政モニター

ほかの国でいい事例というわけではないですが、日本の特別優秀な子って、日本で早期入学とか飛び級がないので、皆さん、大体アメリカに行かれますよね。そのまま大学を卒業して、そこで働くわけですよ。そこでお金が生み出されるのですね。逃がしたくないなと思って、何とか彼らが日本で自由に勉強ができる環境を整えてあげれば、うまくいけば、水戸市にお金を落としてくれる存在になる。そうすると、私みたいな凡人は働かなくて済むというところが目標になります。

○池田議員

昔、水戸高校がそういう役割を果たしていた。

○高橋市長

水戸高校はそうだったんだよな。飛び級はオーケーだった。

○池田議員

飛び級というか、そういうエリート教育じゃないですけど。

○高橋市長

日本でも、昔、千葉大学か何かで飛び級をやったんだよね。日本でも飛び級の制度はなかったですか。大学に行かなかったですか。申し訳ないですが、その子は結局挫折してしまって、今、普通に会社に勤めているとネットに載っていたけど。法律的にはできたんじゃないかな。

○教育研究課

私の理解では、大学につきましては飛び級はございます。ただ、高校以下の学校につきましては、飛び級制度はないというのが現状の制度だと認識しております。

○高橋市長

あとは、高校に限らず、誰かがエリートを預かるところを開設していただいて、ただ、そうすると今度は高卒という肩書きが取れないから大学に行けなくなってしまうのか。そういう場合には大検を取ってもらえばいいのか。いろいろな方法はあるのはあるのだ。

何か、一言あれば。

○市政モニター

ありがとうございます。

自分の何となく考えていたことに対して、こんなに真面目にレスポンスがいただけるとは本当に思っていなかったもので、とてもとてもうれしい限りです。こんなに誠実にお答えいただいたことが、私は今感激しております。

本当にありがとうございました。

○高橋市長

せっかくの提案ですから、どちらも私たちのない価値観ですよ。行政は里親との接触はないし、ギフテッドの価値観も、公立学校の役割は、特化した子を支援するというよりも、全員の個性を何とかしようというところで、ある意味、公平・公正という言葉でなかなか前進できなかったというところがあるのは、役所のいいところであり、悪いところであったのですが、ちょっと新しい価値観の感覚だったものですから、今、逆に真剣に勉強させてもらおうと思って、お伺いさせていただきました。

時間が過ぎてしまって申し訳ございません。

結論が出たわけではないのですが、私たちにとっては新たな提案というか価値観だったものですから、いろいろ勉強させていただきます。

ありがとうございました。

○市政モニター

ありがとうございます。

○司会

ありがとうございました。

それでは、ここで、先ほどから御臨席をいただきました御来賓を紹介させていただきます。

水戸市議会議員 森智世子様。

○森議員

本日はよろしくお願いします。

○司会

同じく水戸市議会議員 打越美和子様。

○打越議員

今日はよろしくお願いします。

最後までいられないのですが、お話を聞かせていただきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

○司会

同じく水戸市議会議員 池田悠紀様。

○池田議員

よろしくお願いします。すごく楽しみにして来ました。よろしくお願いします。

○司会

ありがとうございます。

続きまして、【提言3】「近くに支援者がいない家庭でも安心子育てができる水戸」、【提言4】「ハンディキャップがあっても大丈夫！ 私たちの子→孫→その先もずっと、子育てしたい水戸市を目指して」について、順に発表していただきます。

それでは、【提言3】について、2人の発表者から、お願いいたします。

○発表者2

【提言3】を発表させていただく〇〇と申します。

○発表者3

同じく【提言3】を発表させていただきます〇〇と申します。よろしくお願いいたします。

では、提言書の27ページを御覧いただきたいと思います。

私たちの提言は、近くに支援者がいない家庭でも安心子育てができる水戸です。

まず、この提言が理想とするまちの姿です。

このまちは、負担の多い出産時や育児期に、近くに親族などの支援者がいなくても安心して子育てのできる環境が整っています。

また、市民会館や芸術館、五軒町などの市街地や市役所には無料で利用できる子どもの遊び場、丸井ビルには大規模な支援センターがあります。

祖父母の役代わりをしてくれるホームヘルパーを利用するためのヘルパーチケットや一時保育サービスが充実していますので、保護者は家事や育児の休息を取りたいときや、子どもを預けて出かけたときに気軽に利用しています。

一方、大規模な支援センターには、遊びを目的に出かけ、子どもは雨天時や真夏の危険な暑さの日でも、天候に関係なく、思い切り体を動かして遊ぶことができます。

近くに支援者がいない子育て世帯でも、このまちでは、子育て、日常の雑務、仕事を同時にこなすことの負担が減り、親は安心して子育てをすることができます。

このまちで出産・子育てをしたいと思う人が増え、移住・定住が促進されています。

このまちの魅力は、「親は安心して、子どもは楽しく暮らせるまち」であり、ここではこれを目指したいと思います。

この目標達成の課題は、次のとおりです。

○発表者2

まず、課題が3つありますので、1、2、3と分けて発表いたします。

まず、1つ目の課題としましては、外出時に親子共に行動できるようにするために、ランドマーク付近に子どもの遊び場をつくるです。

今の水戸市の現状としましては、水戸市のランドマークはそこまで多くはないと思うのですが、市役所や駅構内、また、水戸市内にあります旧県庁や現在の県庁、また、京成百貨店、芸術館などを私は思い浮かべています。その付近に子どもが遊べる場所をつくりたいと思っ

ています。

この課題解決への取組としましては、その遊び場というのも、子どもと親が一緒に出かけた際に、親は例えば市役所で何か用事を済ませて満足、京成百貨店や駅などで買い物をして満足ということにはなりますが、子どもはそこについていくだけで何もすることがないのが現状です。

今挙げた中で少し遊び場があるとしたら、南町自由広場のモニュメントが3つあると思うのですがそこぐらいで、そこ以外で遊べるスペースは、皆さん、思い浮かべる場所はありませんか。多分私の知っている限りあまりなくて、そこに無料というのも重要でして、有料だと、たとえ100円かかったとしても今日はちょっとやめておこうか、5分しか遊べないからやめておこうかということがあり得るかと思うので、無料で少し子どもが満足するようなキッズスペースを開設することが問題解決につながると思っています。

具体的な例としましては、市役所の中の場合としましては、市役所の本庁舎1階か2階の低層階に、子どもが十分に走り回れる広さ、例えば、公式バスケットボールコートの中ぐらいの広さを想定しています。

利用するときは、靴を脱いで入れるようにして、小さい子どもでも上り下りができる遊具や滑り台、ボールプール、ままごとハウスなどを置きます。

また、小さい子ども向けだけではなく、3、4、5歳、6歳、小学校に入るまでの親の付き添いが必ず必要な子どもの年齢もみんな満足できるような施設を目標としています。

子どもの遊び場としましては、0、1、2歳、行って3歳ぐらいまでの遊び場が、下の写真を見ますと、3枚、写真があるのですが、ここに6歳の年長の子どもが行ったとして楽しめるかと思うと、少し疑問が残ると思います。なので、遊具や滑り台、もうちょっと遊べるようなものがあればいいなと思っています。

続きまして、課題2に移ります。

乳幼児にかかりきりにならないようにするため、家事や育児の支援を増やす。

私は実際、今子どもが2人いまして、兄弟がいる場合、2人目が生まれた場合などに、上の子どもの面倒を誰がするか、父親が育休を取れない場合誰がするかなどといった問題に直面しました。

そこで、問題解決に当たる取組としましては、妊娠期や産後期の親の負担が大きいことから、以下のとおり、市独自の事業を実施します。

また、こちらの条件としましては、母子手帳交付時及び未就学の子どもを養育している世帯に対し、家事及び育児の信頼できる無料のヘルパーチケットを配布します。

ヘルパーチケットを利用すると、市と委託契約した事業者のヘルパーが自宅に派遣されます。

ここで重要となりますのは、ファミサポなどの無資格の方ではなく、有償で依頼されたヘルパーということになります。

私も水戸市ではファミサポを勧められたのですが、私からすると、おばあちゃん世代の方が子どもを車に乗せて送迎などといったことがあると、とても不安が大きく、頼ることは難しかったので、私は、実際に市から委託されたヘルパーにお願いしたので、そういうような方を理想としています。

また、チケットは、妊娠中や未就園の子ども 1 人につき年間50時間まで利用できます。

利用時間は、利用者が自由に設定できます。

親族で支援できる方が近くにいる場合は、年間上限時間を半分とします。

無料分を使いきった後は、必要に応じて、低価格、1 時間500円などで利用できる制度も整っております。

こちらに関しては、残り時間が少なくなった場合、例えば50時間に近づいてきたときに、気軽に利用することができなくなってしまっていて、何に優先順位をつけるかなどとあって、使う時間の追加が欲しいなと思ったときに追加できるようにしております。

こちらに関しては、私は実際に日立市に住んでいたことがあって、日立市産前・産後ママサポート事業を頼ったことがあって、本当に助かって、水戸市にもないのかということ聞いてみたところ、なくて困って、ファミサポを提案されて、私五軒町に住んでいるのですが、サポートしてくれる方もいなくて、新生児を抱えているところで、一時保育を利用してくださいと水戸市から回答をいただいた経験がありまして、それは私の一人の母親としてはあり得ないだろうと。完全母乳で育てている新生児を一時保育に預けてくださいという水戸市の提案があったので、こちらに関しては、ヘルパーチケットなどを配布して、産後の母親を支援する必要があるかなと思いました。

課題 1、課題 2 に対して、私、〇〇が発表しました。

続きまして、課題 3 の発表に移ります。

〇発表者 3

ただいまから、課題 3 を発表させていただきます。

3 番目の課題としまして、子どもたちが天候に関係なく体を動かせるように、屋内に広い遊び場をつくりたいと思います。

こちらの課題解決への取組です。

例年、丸井ビルに屋内遊び場をつくる提言が提出されているということを伺いましたので、屋内遊び場に対する市民の気運はかなり高いと思われます。

よって、丸井ビル 2 階の現在空きスペースとなっております208・209・210の区画を水戸市が買い取るもしくは賃貸契約を結んで、遊具が充実した屋内遊び場を開設いたします。

運営は水戸市が行いまして、利用料金は、子ども 1 人当たり 2 時間300円といたします。

子どもたちが遊ぶスペースのゆとりを保つために、混雑時のみは時間の入れ替え制といたします。

こちらの空きスペースの屋内遊び場について、私が考えました概要を説明いたします。

提言書の30ページの図を御覧いただきます。

こちらは、丸井ビル 2 階のフロア案内図となっています。208・209・210の 3 区画が空き区画になっていますので、この 3 区画を利用しまして屋内遊び場をつくります。

続いて、31ページの上の図を御覧ください。

こちらは中央の209区画の詳細図です。ここは遊び場の受付ゾーンという形で利用します。ここには、受付カウンターのほかに、ちょっとした休憩のとれる椅子とテーブルを配置いたします。

31ページの下図は208区画の詳細図です。

こちらは託児エリアとして利用いたします。ここには、預けた子どもを見守ってくれる保育者が常駐しております。大きい子ども用の屋内遊具、小さい子ども用の屋内遊具が分かれて設置されているほか、視覚や指先への刺激を与えるパネル遊具や、カラフルな知育玩具が設置されています。

また、年齢によっては、お昼寝が必要な子どももいますので、お昼寝が必要な子どもたちも安心して預けられるように、お昼寝エリアも用意されています。

最後に、32ページの図を御覧ください。

こちらは210区画の詳細図です。

ここは保護者同伴エリアとして利用します。2歳以下の子どもが遊ぶエリアと3歳以上の子どもが遊ぶエリアに分かれておりまして、安心安全に遊べるようになっています。

2歳以下のエリアは、ハイハイや歩きたての頃に当たりますので、ハイハイのしやすい低反発のプレイマットが敷かれていたり、伝い歩きの練習がしやすいようにウレタンアスレチックがあります。

体を動かすことが好きな子が多い3歳以上のエリアには、全身を使った運動ができるネット遊具や、感覚を刺激するカラフル足つば、トランポリン、ボルダリング、想像力やコミュニケーション力、社会性などを養うおままごとのセットが用意されています。

この3区画は、水戸駅のペデストリアンデッキに直結しています出入り口にあるフロアですので、とても利用がしやすく、また、出入り口に近い区画にありますので、万が一、地震や火災などの緊急時に避難がしやすい場所に当たります。

また、駅の近くに屋内遊び場をつくる利点としましては、普段、自家用車での移動が多い子どもたちが、電車やバスを利用して来場することで、公共交通機関の利用の仕方やマナーを学ぶことができます。

水戸市の第7次総合計画の重点プロジェクトの一つ、「水戸の未来をリードするこどもたちを育む～みとっこ未来プロジェクト」において、戦略的な取組として、子どもが活動しやすい環境づくりを掲げていらっしゃると思いますが、公園などの子どもの遊び場の充実を図るということで書いてあるのを見ました。

そこで、ぜひ屋外公園だけでなく、屋内の遊び場も充実させていただければと思います。

以上で、私たちの提言発表を終わりにいたします。

御清聴ありがとうございました。

○司会

〇〇さん、〇〇さん、ありがとうございました。

では、続きまして、【提言4】について、〇〇さん、お願いいたします。

○発表者3

続いて、私〇〇が【提言4】を発表させていただきます。よろしくお願いいたします。

提言書の33ページを御覧ください。

私の提言は、「ハンディキャップがあっても大丈夫！私たちの子→孫→その先もずっと、子育てしたい水戸市を目指して」です。

まず、この提言が理想とするまちの姿です。

このまちには、場所の特色を活かした無料の屋外公園があります。楮川ダムには、年齢が

異なっていたり障害があっても一緒に遊べるインクルーシブ公園、渡里湧水群公園には豊かな自然を活用した遊び場があります。

私がこの2か所を例に挙げた理由としましては、楮川ダムは、水戸の景観30選や森林公園とともに新水戸八景に選ばれている景色がきれいな場所です。

渡里湧水群は、湧水群一帯の環境整備活動を行うために、地元有志により渡里湧水群を生かす会が設立されており、その環境整備活動に対して、内閣総理大臣賞「緑の都市賞」を受賞しています。

しかし、地元の人でもあまり知られていないということが現状なので、これらの場所を水戸の目玉になるような公園にして、水戸の魅力として多くの人に知ってもらいたいという思いがあります。

子どもたちは、普段から障害児や医療ケア児と遊びを通して関わることで差別や偏見を持たずに成長しています。

また、市内に遊び場が複数あることで、このまちで子育てしている市民は市外へ出かけずに済み、市内で過ごしています。

一方で、水戸市外からは多くの家族が水戸市内に遊びに来ています。

このまちは、子どもにとって楽しい思い出がある場所になるほか、障害者を受け入れているまちとしても人々から好印象を持たれています。

多くの人がこのまちに愛着を持ち、楽しいこのまちに住みたいと思うことにより、移住・定住が促進されています。

このまちの魅力は、「アドベンチャーでいっぱい、ワクワク・ドキドキ、子どもたちみんなが楽しくて満足できる水戸市」であり、ここではこれを目標といたします。

この目標達成への課題は、次のとおりです。

課題、どんな子どもでも多様な遊びができる場をつくるため、以下の問題を解消します。

①大規模なインクルーシブ公園をつくる気運が低い。②バリアフリー化された自然豊かな公園建設の気運が低い。③財源を確保するの3つです。

現在の水戸市には、健常児にとって魅力的な、運動機能が高められる大型遊具のある屋外公園が少年の森公園ぐらいしかありません。

また、インクルーシブ公園は水戸市内に1つもない状態です。

少年の森公園の大型遊具周辺は、雨上がりや冬場は遊具周辺の泥がいつまでもドロドロの状態になっております。

遊具周辺の急斜面が泥で滑りやすく、転ぶ子どもも多くいます。

また、泥だらけの靴で遊具を使用することで、遊具が滑りやすい状態になっていることもあり、安全に遊ぶことが難しいときもあります。

インクルーシブ公園がないことで、障害児や医療ケア児が健常児と同じ環境で遊ぶことができません。

また、障害児や医療ケア児が自然に触れられるバリアフリーな公園もありません。

このような理由により、今の水戸市にはどんな子どもでもワクワク・ドキドキできる遊び場がなく、市外の公園にわざわざ遊びに行ってしまうです。

次に、課題解決への取組です。

課題①の大規模なインクルーシブ公園をつくる気運が低い、課題②のバリアフリー化された自然豊かな公園建設の気運が低いについてです。

どんな子どもでも、ワクワク・ドキドキできるためには、大規模なインクルーシブ公園やバリアフリー化された自然豊かな公園が重要と考えておりますが、この点は必ずしも市民間で意見が共有されているわけではありません。

そこで、市内の保育園、幼稚園、小学校、特別支援学校に通う子どもや保護者を対象にタウンミーティングを開きまして、意見の統合を図ります。

タウンミーティングの議題としては、次のとおりです。

「大規模なインクルーシブ公園の設備についてどのように考えますか？」「バリアフリー化された自然豊かな公園の整備についてどのように考えますか？」「ワクワク・ドキドキできる遊び場とは？」です。

続いて、課題③の財源を確保するについてです。

次の事業を地方創生応援税制、通称企業版ふるさと納税の寄附対象事業として寄附を集めます。

事業名は、「どんな子どもでも遊べる公園建設事業」です。

事業概要としましては、1 大規模なインクルーシブ遊具の設置。

2 バリアフリー化のための整備。具体例としましては、渡里湧水群内、野木山緑地付近の橋の改修、公園内にみんなのトイレを設置。

3 公園設備の充実。具体例としましては、渡里湧水群内にウッドチップの整備、公園内に手足洗い場の設置。

この3つを掲げます。

茨城県内では、常陸大宮市にある道の駅かわプラザにおきまして、ビジョン株式会社からの企業版ふるさと納税を利用し、令和5年にコンビネーション遊具とインクルーシブ遊具を設置しております。

また、北海道苫小牧市では、約20年ぶりとなります地区公園新設に向けまして、企業版ふるさと納税の寄附を募集しています。

これらは、参考事例としまして次のページにも掲載しておりますので、併せて御覧いただければと思います。

私の提言発表は、以上です。

御清聴ありがとうございました。

○司会

〇〇さん、ありがとうございました。

それでは続きまして、発表を基に、市長と懇談をしていただきます。

4時24分までをめぐりに懇談していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○高橋市長

ありがとうございました。

〇〇さん、〇〇さん、すみません。水戸市がいろいろ至らなくて、不快な思いをさせてしまったので、申し訳ございませんでした。反省します。

反省するだけは何とかでもできるというから、ちゃんと実行に移さなければならないので

すが、いろいろ提案があったので、少し整理しながら懇談したいと思うのですが、今まで、市民の皆さんとか子育て世代の方々にいろいろ言われてきたのは、何々を安くしてくれとか、何々をただにしてくれとか、何々をくれとか、そういうことだったのですが、給食費もただにするということが大体見えてきて、保育料なども計画的に無料にするということを発信してきて、ランドセルはあげられないけれども、3万円という現金を差し上げるようにしてということをやってきたものですから、最近、私がいろいろなお祭りとか地域のイベントに行っても、私に、何々をただにしてくれとか、何々をくれという話はほとんどなくなったのです。

ただ、若い方々と意見交換すると、今、2人がおっしゃった子どもの居場所、遊ぶ場が水戸は圧倒的にないということは実は言われているのです。これが逆にすごく多く言われるようになった。何々をただにしてくれというのはお祭りなどに行ってもまず言われない。昔は、私の顔を見ると、すたすたと寄ってきて、何で給食費がただにならないのだとか、ランドセルをくれないのだとか言われたのですが、今はまず言われない。

皆さんの考え方とは角度が違いますが、例えば、池田議員さんなどからは、校庭を開放したらいいだろうという提案が出ている。それを今、実験的にやり始めます。

それから、公園でボール遊びとか何かやると、叱られたり、うるさいと言われたりするの、ある場所を選んで、そこにネットをつけて、ボール遊びができるように、今年から試験的にやってみて、それを横展開して増やしていこうかなと思っています。

あとは、皆さん、どうしてもハレニコ！、ハレニコ！と言われるのですが、今、ソフト事業にお金もものすごくかかっているものですから、新しいハード事業になかなか向かないものですから、既存のあるものを何とかしようということで、水戸市には34か所の市民センターがあるものですから、それが今は大人とか高齢者の遊び場になってしまっていて、子どもの遊び場になっていない。だから、町内会とか自治会にお話をして、今のところ7か所なのですが、子どもスペースを設けさせていただいて、そこを子どもたちに利用してもらっている。そこで読書しようが、ゲームを持ってきて遊ぼうが、おしゃべりしようが、何でもいいよということでやっているのです。それを何とか34か所全部に広げていきたいというのが今の考え方なのです。

新しく物を建てるということではなくて、あるものを活用していこう。特に学校の校庭とか、あるいは体育館とか、それが使われていないのに、学校の先生方の働き方改革とか、放課後学級の人たちとごちゃごちゃになってしまっていて、支援員が放課後学級ではない子までは見きれないから、来てもらっては困るとか、そういうことでハードルができてしまっていて、子どもの遊び場がどんどん少なくなっている。そこを何とか解決しようということで、今、やらせていただいています。

皆さんの提案とは違うのですが、子どもの居場所は、今、相当言われる課題なので、1個ずつ解消してきてはいるのです。

もう一つ、皆さんに聞きたいのは、令和7年度の予算で、子育て支援・多世代交流センターの遊具を入れ替えて、面白くするのですが、あれではだめな理由は何でしょう。というのは、あれはこういうところが不便だとか、狭いとか、預かりがないとか、相談が何とか、あれではだめな理由は何なのか。であるならば、新しいものをつくるよりも、今あるわん

ぱーく・みと、はみんぐぱーく・みとの機能を強化したほうが全然安く済むのです。あれに対しての不満というのは何があるでしょうか。

こうすればいいということがあれば、新しいものをつくるよりも、機能替えして、使い方をよりよくしたほうが現実的だなと思っているのですが、それを教えてもらえますか。

○市政モニター

まず、多世代交流センターがどこかが分からないのですが、どちらのことを指していますか。あかしあのことですか。

○高橋市長

あかしあ、わんぱーく、はみんぐぱーくの3か所です。

○市政モニター

その3か所ですね。私は、あかしあは個人的に遠くて行ったことがないのですが、わんぱーくとはみんぐぱーくに関しては、0，1，2歳ぐらいまでのハイハイ・ヨチヨチの子どもにとっては楽しいかと思います。それ以降になったときに、3歳で走れるようになった子が行くと、1，2時間遊べるかという、小さな滑り台を滑るだけで、全然楽しくない。1回ぐらいはやってくれるのですが、実際に子どもがやると、大きくなった子どもは、0，1，2歳のうちに積み重ねてきた経験が、わんぱーくだと何回も何回も行っていて、またここかと、新たな発見が全然なくて、うちの子どもは全然行きたがらなくなりました。

今、大きい子が6歳で年長なのですが、わんぱーくもはみんぐぱーくも、6歳の子どもが遊ぶとなると、エリア分けもされていなくて、幼稚園に行き出した子どもが走るのもだめと言われるし、遊ぶ遊具もないし、何をしに行くかという、何もできないので、行けないです。

ほかの遊び場に行くとなったときも、室内で遊べるようなところは特になくて、支援センターの開放などもあるのですが、そこも赤ちゃん向けというのが大きくて、3，4，5歳、幼稚園に行っているような学齢の子どもに対する支援が私は思いつかなくて、現状、困っている状態です。

○高橋市長

就学直前ぐらいの子どもの室内の遊び場。

○市政モニター

幼稚園に行き出して、やんちゃに遊ぶ頃。

○高橋市長

就学前の3，4，5歳、あるいは4，5，6歳ぐらいの子どもたちが伸び伸びする遊び場がない。

○市政モニター

はい。私は知らないです。あれば教えてください。

○高橋市長

いや、ないです。

○市政モニター

日立と比較するのは申し訳ないのですが、日立だともうちょっと遊べるので、ハレニコ！は最近できたのですが、子どもセンターというところがあって、部屋の中も外も遊べて、砂

場遊びもできて、泥遊びもできるようなところがあったり、日立だと、海に行ったりもできますし、遊具とか公園があるところも、私の感覚だけなのですが、行きやすい場所がちょこちこあるのですが、今、水戸の五軒町あたりに住んでいると、本当に遊び場がなくて。

○高橋市長

遊び場というのは、遊具付きの遊び場ね。例えば、芸術館の芝生広場だとか、旧県庁舎の芝生広場だとか、そういうのでもだめだということね。

○市政モニター

ただの広場だけしかないのは。

○高橋市長

遊具とか何かがないとだめだということね。

○市政モニター

ちょっと欲しい。公園が本当になくて、あのあたりに公園がほしいというのが一番で、市政モニターに申し込みました。

○高橋市長

あとは、できれば室内ということだよ。

○市政モニター

そうですね。

○高橋市長

あの辺では、今、なかなか難しいのだけれども、文化交流プラザを壊すのですが、そこに今度は新しい市民センターをつくって、どういう機能を持たせたらいいかということを地元で議論していただいているのです。

水戸市の失敗って、私も市議会議員から30年政治をやっていて、どうしてもシルバーデモクラシーで、高齢者のほうばかり向いていて、高齢者の遊び場をいっぱいつくってきたのです。市民センターもそう。34か所もつくりながら、児童館は1個も持っていないのです。市民センターばかりつくってきってしまったという反省点はあるのです。それって、私も反省することだし、先人の政治家はみんな反省することだと思うのですが、ただ、反省ばかりしていてもしょうがないから、新しいものをつくるのにはなかなかお金がかかるので、1個つくれば5億円、6億円かかってくるわけだから、今あるものを機能替えして、高齢者も使えるし、子どもも遊べるしというふうにしていけばいいのだと思うのだよ。

だから、市民センターなどにも、0、1、2歳は結構簡単にできるのですが、3、4、5歳の子どもたちが遊べる室内遊具は相当レベルが高くなるので、据付みたいな形じゃないと、その時間だけ出して、片づけてみたいなことはちょっと難しいかなと思います。

ただ、そういうところを工夫しながら、市民センターを、空間と時間を子どもたちのためにシフトするという方法をとっていけば、あそこには三の丸市民センターもあるし、五軒の市民センターもあるし、ちょっと歩くかもしれないけれども、新莊市民センターもあるし、市民センターを、子どもたちがもう少し面白く過ごせるように、図書スペースはあるのですが、本を読んだだけでは面白くないでしょうから、まずは遊べるふうにしたらいいいのではないかな。今、それを考えています。そうすれば、暑いときは涼しいし、寒いときは暖かいしということなので。

ただ、まだ高齢者が使っているのも、だめだと言われているところがちょっとあるので、今、7か所しかできていないのですが、そういうところをまずは進めていきたい。

〇〇さんの子どもがまだ小さいうちにできるかどうかまではお約束できないのですが、今すぐハレニコ！を作りたいと言われても給食費とか保育料の無償化でいっぱいいっぱい状況なものですから難しい。丸井ビルも水戸市が関係しているビルではあるのだけれども、家賃がとても高いのです。昔、本気になってハレニコ！を作れないかなと思って、一番上のスペースが空いている頃に頼んだら、年間の家賃が3,000万円だと言われて、あそこはとても高いのです。ハレニコ！分のスペースだけでも年間の家賃は500～600万円になってしまうので、年間家賃が500万円だったら、何か建ててしまったほうがいいのではないかというくらいなのです。安くしてくれと言っても安くしてくれないのです。

ただ、おかげさまで、あの辺、いろいろなものが入ってしまうみたいだから、でも、このスペースはまだ空いているのかな。ちょっと家賃が高いので、なかなか難しいところがあって、今、非常に悩んでいます。

まずはあるもの、市民センターをしっかりと活用して、できれば小学生も遊べるようにしたいなと思っているのです。小学生の遊び場もないのですよ。だから、体育館とか市民センターとか、新しいものを今からつくろうと考えるよりも、あるものを活用するほうが、時間も短いし、金もかからないので、それを今、考えているところです。

いついつまでということとは言えないのですが、とにかく、あるものを活用して、乳幼児ではない、4、5、6、7、8、9、10歳くらいまでの子が遊べるようなところは提供していきたいなと思っています。

もう一つ、最後の発表、あれはつくる予定があるのです。ただ、時間が少しかかります。言われた場所ではないですが、小吹の清掃工場跡地がこういうふうになるのです。これはやっと地元と合意形成が得られたのです。今まで地元となかなか合意形成が得られなくて、やっと合意形成が得られたので、今年から解体が始まるのです。

ただ、あれだけの大規模な解体なので、解体だけで4～5年かかってしまうのです。4～5年だったか、5～6年だったか。

○市長公室長

事務所だけで3年です。その後、今度は工場を解体しますのです。

○高橋市長

6～7年か。

○市長公室長

ええ。新たな施設をつくるとなると、もっと先になってしまう。

○高橋市長

そのぐらいかかってしまうのです。あれだけの大規模な建物ですから、解体だけで大体30億円近くかかってしまうのですが、それをやってから、そこに実はこの類いの公園をつくらうと提案してあるのです。子どもたちのアスレチック系の遊具であるとか、インクルーシブ遊具であるとか、それから、高齢者の健康遊具、そこで多世代交流をやっていこうということで、これは提案して、やっと合意形成がなされているので、できるのはできるのです。

ただ、先ほど言ったとおり、解体に時間が相当かかってくるものですから、また6～7年

後とか7～8年後という話にはなってしまうのですが、皆さんのお子さんが成人以上ぐらいの年齢になってしまうのですが、これは予定しているのです。

財源も、解体費用と入れて、相当かかるのですが、お金も示しています。

それから、くれふしの里という「はにまるタワー」があるところに大きな遊具を入れて、あそこに数千万円かけて、一つ、遊び場をつくるということを計画して、これは令和7年度でやってしまいます。

そういうことで、なかなか日立市さんまでにはいなくて申し訳ないのですが、少しずつそういったことをやって、子どもの居場所をつくっていきたいと思っています。

それから、産前産後のサポートというのは、今、どういうふうな状況になっていますか。前にも言われたよね。いつも日立市と比較されるのですよ。前々からずっと日立市と比較されて、ネットで引いたら、日立市しか出てこなくて、水戸市では全然出てこないというふうに言われて、あの後、どういうふうにしたのか。そのまま、変わらないの。

○子育て支援課

産前産後につきましては、ちょっと心配な妊婦さん、産婦に関しては、すまいるママみというところで関わってはいるのですが、第1子に関しましては、生後40日以内に家庭訪問させていただいて、いろいろお話をお聞きして、支援が必要な方には支援員につなげたり、第2子の場合は、4か月以内に家庭訪問をさせていただいている状況ではあります。

○高橋市長

預かってくれる人がいないということか。ファミサポでは心配だから。

○市政モニター

というよりは、ファミサポ自体もあまりいなくて、結局、すごく費用がかかる。言い方は悪いですが、ただのおばちゃんに1時間700円と交通費をかけて来てもらって、ファミサポの家に預けるしかないのですよ。送迎とかも、もし預かりをお願いするとしたら、ファミサポのお家に行かないといけなくて、それはあればあるだけうれしいのですが、実際に私が頼ろうとしたときに、頼れる方がいないというアンマッチになってしまっ。市内でお願いしようと思っても、子どもが小さすぎると預かってくれる保育園はほとんどなくてという状況になって、心配な親御さんとして認定をしてもらって、ヘルパーをちょっとだけ使わせてもらったのですが、私だけ文句を言い続けたから使わせてもらった状況と私は思っていて。それが全員、支援がない方も平等に使えないと、使っている者としてはいいのですが、不公平だなと思いながら、使えるものは使わせてもらいました。

○高橋市長

文句という言葉が正しいかどうかは分からないけれども、言ったらやれるということは、やれているということだよ。それはどういうことなのだろうね。言ったらやれてしまったということはおかしいんじゃないの。

○子育て支援課

子育て世帯訪問支援事業といいまして、1年に最大50時間というヘルパーを派遣する事業もございしますが、支援者がいないとか、子育てで不安と見られる保護者の方というような形での訪問になっておりまして、ただ、マッチングができなくて、日にちが指定できなくて御利用できないというような場合もあったりするので、なかなか希望どおりに派遣したりする

ことができない状況ではございます。

○高橋市長

それは人がいないからですか。この事業は、人がいれば何とかなってしまうのか。ファミサポを否定するのも、せっかく一生懸命やってくださっている方々に申し訳ないから、そことしっかりバランスをとりながら。

日立はどういうふうにやっているの。日立は専門職の方々がやって、ファミサポではない、安心できる人に預けられるのですか。

○市政モニター

そうです。水戸も、先ほどそちらの方がおっしゃった子育て支援の事業は、日立と同じように専門の人がやっているのですが、条件が違って、日立は誰でも利用できて、水戸市は困らないとだめらしいです。

○高橋市長

困らないとだめなんだ。でも、みんな困っているんじゃないの。

○市政モニター

私は知らずに使えるようになったので、支援が受けられない妊婦さんに教えたら、いや、あなたは困っていないので使えませんかと言われたという結果になっていて、結局、生活保護や一人親とかが優先されるので、両親がちゃんとして、うちもいるのですが、近くに支援者がいなくても、そういう家庭は基本的に対象にならない。

○高橋市長

〇〇さんは、困っていないのに預けたいというのはどういうことですか。

○市政モニター

ファミサポとかがいなくて、多少の持病を認定してもらったのであろうと私は思うのですが、認定基準はの中でやっているのだから分からないのですが、それを使えるよと紹介してもらって、お友達はそれを聞いたらあなたは無理ですと言われて、詳細さえも教えてもらえなかった事業で、それに対してすごい不信感というか、使ってよかったのかも分からないし、何で友達に教えていけないのかも分からないし、というもやもやが残っていて、問い合わせたところ、理解してという感じで終わってしまったのですが。

○高橋市長

そういう声がある以上は、我が市も是正に向けた努力をしていくことだよ。前にも同じようなこと言われたじゃない。あれから3年たっていて、また結局同じことを言われているという状況があるわけだよ。箱物じゃないんだから、箱物は何億円とかかるからなかなかできないけれども、人の手当てと予算でできるものだったら、少し考えてあげたらいいんじゃないの。経済的負担の軽減と相談支援体制の強化という子育て支援の一つなのだからね。

○市政モニター

ちなみに、産後ケアも全部断られました。産後ケアも、産前から利用したいといろいろやっていたのですが、産後じゃないと申し込めなく、産後に申し込むと、どこも無理ですと言われてだめだったので、全部無理が重なって、ヘルパーさんを利用させてもらったと思います。

○高橋市長

日立はそれが全部できるんだ。

○市政モニター

日立は、私のときは産後ケアがなかったです。私が引っ越した直後ぐらいに産後ケアの取組ができて、友達は使っています。

その病院の空きがあると思うので、しょうがない面もあるかと思うのですが、どうしたら使えたのだろうなと利用者としては思いました。

○高橋市長

そういう方が周りにはいっぱいいるのですか。

○市政モニター

周りは、産後ケアを使えるというのを知らない人も結構います。ヘルパー自体も、ある意味、紹介された人しか知らない制度なので、知らなくて、私は日立でいろいろ支援を受けたから、こういうのがないかなと調べるのですが、知らない人はそれで平和に暮らしているの。

○高橋市長

だから、ある意味、簡単なことで、日立、日立、日立といつも言われるわけだから、ハレニコ！は別としても、こういう仕組みとか、制度とか、人員配置とか、こういうソフト事業というのは、ある意味、いいところを真似してもいいのではないかと私は思うのです。別に水戸市が先進的にやろうというプライドなんか私はないから、どここの市を真似しただろうが何だろうが、人々が幸せになればいい話なのだから、水戸市が新たに考えろではなくて、やっているところが日立にしたってどこかにしたってあるんじゃないの。それをそのままそっくり真似して、人と体制を整えればいい話で、それをすぐに1年でやれと言っているのではなくて、あれからもう3年もたっているのに、できていなかったというのは、これは言われても仕方のない話なのですが、少し考えてみたらいいんじゃないの。日立はどういうふうに行っているか、見てきたらいいじゃない。そっくりそのまま全く同じのをやればいいじゃない。

これ、毎回同じことを言われるよ。真似すればいい話だ。別に新しいことを始めるわけでもない。人がやっていることを、同じことをやればいい話で、それで十分なのだから。それ以上の新しいことをやれと求めているわけじゃない。考えてみたら。あれから言われて3年もたっているんだから。

指示しました。私の監督不行き届きで、なかなか進めなくて。もう3年もたっているのですよ。実は同じことを言われていた。3年ぐらい前の市政モニターさんに全く同じことを言われていた。

申し訳ございませんでした。

○市政モニター

本当に何か手が欲しいときが結構あるので。

一つだけ言っていていいですか。

市内の小学校とかの就学前健診に下の子を連れてくるなという通知があって、支援者がいない、2人目を産んでいる世帯としてすごく困ったのです。それは市としても推奨していることなのですか。助けてもらう人もいないのに、人口を増やして頑張っているのに、連れて

くるな、手伝う人はいないぞというのは、ひどいなと思ったので、小言だけつけ加えさせてください。

○高橋市長

それは小言じゃないです。なぜ。今日、担当者はいないの。常識的に考えたら、こどもを連れてきたっていいでしょう。

○市政モニター

お控えくださいと。

○高橋市長

それは保健所の話なので、ここの担当ではないものですから、今、答えられないのですが、私のほうから言っておきます、そんなことやめろって。

○市政モニター

どうしようって。子どもを産んで頑張っているのに、そう言うのだったら一人っ子政策にしようねという気持ちになるので。市内に支援者がいる前提で動いているのだなというのをすごく実感することが、小学校の説明会も連れてこないでと書いていて、先生に聞いたら、今まで連れてきた人は見たことないですねと言われたので、すごいと思って。

○高橋市長

それは教育のほうじゃないの。

○教育研究課

教育委員会のほうでやっているところではございますが、確認させていただきたいと思います。

○高橋市長

とにかく不親切なことはやめてよ。連れてきたり、子どもが泣いたり、うるさいというのは、泣かない子どもなんかいないんだから。自分たちの小さい頃は泣かなかったのかということでしょう。自分たちだって赤ん坊の頃は泣いたじゃない。泣かない赤ん坊なんかいないですよ。それをうるさいとか困るとかというのは、みんなで許容しないと、初めから、あの人に誰かが言われるからとか、ほかの保護者にうるさいと言われるからとか、だから連れてこないでと言ったら、うるさいと言った人ほどうるさいと言ってやればいいんだよ。そういうことを学校側とか行政が勇気を持ってやらないから、いつまでも頑張っているほうが犠牲になって、声の大きい人のほうが勝つことになってしまうので、そういうことって、やめようよ。

私から指示しましたから、いろいろ不快な思いをさせてしまって、申し訳ないです。

健診と学校の就学に、そんな文書は今後撤回するよう言っておいて。

以上です。

○市政モニター

ありがとうございました。

○高橋市長

もう終わってしまったことだからね。本当に申し訳ないですね。

○司会

ありがとうございました。

それでは、ここで、先ほど御臨席をいただきました御来賓の紹介をさせていただきます。
水戸市議会議員 藤澤康彦様。

○藤澤議員

本当に市民の生の声を聞かせていただいているなと思いました。

私も実は市政モニターを20年ほど前にやっておりました。今回、この場にあって、市長があれだけのやり取りと回答をしてくださるのだなと。その当時はありませんで、基本的に一方通行の時代でありました。そういう意味では、この集まりは非常に意義のあるものだと思います。よろしくお願いします。

○司会

ありがとうございます。

続きまして、【提言5】「自然環境あふれるまちで利便性が良くて優れた教育が受けられるまち」について発表させていただきます。

それでは、〇〇さん、お願いいたします。

○発表者4

市政モニターの〇〇と申します。よろしくお願いします。

まず、35ページの1ページのみになります。

初めに、一言だけ、自己紹介なのですが、私は、今、就職を機に水戸に居住しまして、水戸が大好きで、今、住んでおります。

水戸にマイホームを購入予定で、これからも住む予定です。今、5歳と3歳の子どもがおりまして、子育てもしております。週末等は、イベントなど、楽しく、頻繁に参加しております。そんなこともあり、今回、水戸の市政モニターに参加させていただきました。

提言に移らせていただきます。

提言としては、自然環境あふれるまちで利便性が良くて優れた教育が受けられるまちとさせていただきます。

私の理想のまちですが、このまち水戸市は、お店や病院をはじめとした社会的なインフラや、教育機関など、子育て生活に適した環境や、自然豊かな千波湖や偕楽園などの余暇、娯楽などを楽しむ環境などが整っているため、安心して生活し、子育てがしやすいまちとなっております。

また、高校などを見てみると、学科の種類も豊富で、偏差値も豊富で、学校の数自体たくさんありまして、様々なジャンルの部活動やサークルも存在しております。

そして、このまちは、全体的に生活の利便性が高く、人々は自分が住みたいと思ったところに住んでおります。

また、子どもたちは、市内の豊富な進学先から希望の学校を自分で選択し、小学校、中学校、高校までと進学しております。

学校や職場以外のコミュニティを見た場合でも、大人も子どもも、スポーツやサークル活動などをして楽しんでいます。

余暇の時間には、アプリから届く情報を基に、市内のイベントに頻繁に参加したりしております。

生活面の利便性が高いこのまちは、市内のどこに住んでいても、安心して楽しく暮らすこ

とができて、水戸で暮らす未来に希望を持つことができます。

それによって、水戸市は、県内一のまちとして人々に選ばれ、移住・定住が促進しております。

私が理想とするまちのキーワードとしては、ここまで出てきたもので、「自然」、2つ目に「教育」、続きまして「娯楽や余暇」、そんなキーワードが挙げられます。

繰り返しですが、私は就職を機に水戸に居住をしましたが、約8年間住んでおります。

そして、住んだ経験として、これらのキーワードは概ね満たされているとも感じております。なので、水戸が好きということもございます。

一方で、娯楽や余暇などを見てみると、楽しむための基盤はあると思うのですが、これはさらに伸ばせる可能性を秘めていると思ひまして、課題と思う部分もございます。

そこで、私の目標としては、次のように置きました。

自然環境あふれるまちで余暇を楽しめること。

この目標を達成するための課題としては、1点、挙げました。

課題については、まちのイベントの情報を手に入れるため、情報入手負担が存在すること、これを課題といたしました。

背景としては、市内で開かれているイベントの情報については、水戸市の公式のホームページ内にイベント情報集約サイトというものがあひまして、そのホームページに自らがアクセスし、サイトから欲しい情報にたどり着く、そのような経路になっておりますが、そこまでの検索の手間がかかると感じております。

そして、私たちモニターのようなミレニウム世代やZ世代などと呼ばれている世代だと思いますが、子育て世代は、スマホとかパソコン、デジタルガジェットは比較的身近なもので、慣れ親しんで使っている世代とも思っております。

そんな中で、これらの課題を解決するためにはどうすればいいか。解決策として、1つ、挙げさせていただきます。

簡単に言うと、アプリを1つつくります。どういうものかという、子育て世代が負担なく情報を入手できるアプリ、仮称ですが、「ミトイベアプリ」とさせていただきます。

そして、これらのアプリの特徴を5点挙げます。

イベントの通知がプッシュ型で来ること。今まではプル型なので、プッシュ型で来るということがマストの条件になります。

2点目、イベント検索時のクリック数が少ないこと。先ほど申し上げたように、私たちの世代はアプリも使い慣れていると思うので、欲しい情報にたどり着くまでのクリック数は、この辺は直接意識していないものの、それが大きいと離脱する傾向もあるというデータもあひて、これらは少なくします。

3点目、テキストベースではなくて、直感的に操作できるインターフェイスであること。文字だけでは読むのが大変になってしまうという世代でもありますので、簡単に欲しい情報にたどり着くため、アイコンとかイラスト、イメージ、写真、これらを使ひます。

4点目、位置情報や開催場所情報からの検索。自宅の近くのイベントを簡単に探したり、出先でイベントを簡単に探すため、位置情報を導入します。

5点目、アプリ広告サービスの市への収益化を図る。これはプラスアルファですが、これ

らのアプリが軌道に乗れば、飲食店、サービス業とか地元の企業からのフィーも狙っていけるのではないかと考えております。

「みとっこ子育て応援アプリ」があると思うのですが、こちらは育児に特化したアプリだと自分では理解しております、ここは棲み分けをし、私の提案するアプリは遊ぶとか、余暇とか、イベントを重視したものにしたいと思っております。

最後、参考として、「マチイロ」というアプリ、これは民間のアプリで今リリースされているものがありますが、こちらは主に広報紙にアクセスができる、または市の公式のホームページにアクセスができるものなので、イベント情報が配信されてはくるのですが、そこをタップすると市のホームページに飛ぶようになるので、ホームページからまた見つけていくというようなことが発生するので、その棲み分けをしたいと考えております。

ただ、イメージとしては、スマホに直接プッシュ通知が来る。こういったものは近いかなと思います。

私からは、以上です。

御清聴ありがとうございました。

○司会

〇〇さん、ありがとうございました。

続きまして、発表を基に、市長と懇談をしていただきます。

5時1分までをめどに懇談していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○高橋市長

〇〇さん、ありがとうございました。

アプリって結構難しくて、一回、失敗しているのです。あれは幾らぐらいかけたらうな。1,000万円ぐらいかけたのかな。「水戸のこと」は1,000万円ぐらいかかったのか。

○みとの魅力発信課

そうですね。1,000万円程度かかっています。

○高橋市長

かかったよね。でも、あれ、もう今はやっていないんだよね。

○みとの魅力発信課

はい。

○高橋市長

一回、失敗しているのですよ。特に、飲食店情報は「食べログ」にかなわないですね。皆さんがいろいろ書き込みをするので、それに基づいて、ああいう大手のほう情報がいっぱい集められる。うちも登録してくださいと言ったり、あるいは、自分たちで探して登録しているのだけれども、水戸の飲食店は、飲食店の登録としては5,000件ぐらいあるのです。やっているの、3,000件、4,000件ぐらいあるのですかね。

うちで2020年から保健所を持つようになったので、今、飲食店の許認可は水戸市役所なのです。だから、うちで全部飲食店情報を持つのですが、飲食店情報は大手のサイトにはかなわないですね。

そこに今度はいろいろ書き込みがあるから、ここは評判がいいとか悪いとか、その書き込みを参考にして行ったりするわけです。

だから、独自のアプリは一回やって失敗しているのだけれども、今回の子育てのアプリは評判がいいのですが、イベントとか飲食とか、要は観光に結びつけるようなものはなかなか難しいのだけれども、成功する肝はあるかね。どこかで成功しているのはありますか。独自のイベント情報とか観光情報の水戸だったら水戸だけの情報を発信するアプリで成功しているところはありますか。

○市政モニター

御意見ありがとうございます。

なかなか答えが出ないのですが、アプリを提言しておいて別な切り口になるのですが、アプリは難しいと承知をしているというか、使う人のパイが決まっているので、なかなかハードルが高いと感じているのですが、水戸市ではLINEの配信サービスをやっていると思うのですが、私もこれを利用してまして、ゴミ収集のカレンダーの種になっているのですが、例えば、アカウントを2つつくる。2つというのは、LINEを使っていると、水戸市というアカウントが1個あると、そこからの情報がゴミ収集とか、イベントも来ると思うのです。あと、育児に関することとか、全部がまとまって来るので、正直、あまり見なくなるという実体験がありまして、イベントだけに特化した水戸市LINEアカウントのようなものをつくってみたら、例えばスモールスタートのような形で、実験的にはなるのではないかと考えます。

○高橋市長

確かに、LINEは結構利用してくださる方がいて、あれは便利だなと言われるのです。ただ、何でもかんでもやると、今度は煩わしくなってしまうのですかね。ゴミなんかも、私も住所を登録していると、自分の町内のは前の日の9時に必ず届いて、忘れずに行けたりするのですが。

ただ、いろいろなものが同じく届くと、煩わしくなってしまうから、生活は生活、イベントはイベントみたいにしたいほうがいいのかな。これはどうなのでしょうね。

○市政モニター

そこはおっしゃるとおりだと思います、公式アカウントは私はほとんど見ないのですが、見ないで何百というふうに溜まっていつているような状態なので、特化すると効果が見えるのかと思います。

○高橋市長

私たちもホームページなどにイベント情報を載せているのですが、多分、若い人たちは、水戸市のホームページは見ないと思うのです。子育てなどは見るけれども、市役所はどうしても行政情報というお堅いイメージがあるから、子育てとか教育とか、自分が手続をやろうというものについての検索はするけれども、いろいろなイベントに関しては、ホームページは見ないと思うのです。要は、行政手続情報みたいなイメージがあるから。

私はすごいと思うのは、私はいろいろなイベントに行くじゃないですか。若い方々が結構来ているのですよ。来ていただけるのはありがたいことなのですよ。どこかでこういう情報を見て、上手に遊ぶ方法を知っているのですよ。ディズニーランドとかあえてお金がかかるところばかりではなくて、地元の無料で1日子どもが遊べるようなところに上手に来るのです。あれは、皆さん、どうやって情報を得ているのですかね。

○市政モニター

自分が若い世代と言われる世代か、ちょっと疑問もあるのですが、私は、よく水戸市のホームページでイベントは見えてまして、その中で操作性がかなえられると思ったのがきっかけで提言させていただきました。

話は変わるのですが、例えば住宅展示場などで、子ども向けのイベント、集客のために子どもを引きつけるというのはハウスメーカーのセールスの手法なので、アンパンマンとか、ドラえもんとか、プリキュアみたいな、ショーみたいなものに結構人が集まってきて、それはそれでハウジングギャラリーが営業をしている賜物だと思うのですが、それが水戸市のホームページに載っていたりして、幅広く情報はあると思ってまして、その広げ方は、一つ、課題があるのではないかなと思ったところではあります。

どうやってこのイベントに来ているのだろうというのは、正直、私はイメージがつかないのですが。

○市政モニター

水戸市の週末イベントみたいなもので、インスタで紹介しているアカウントは結構たくさんあって、私は大体そういうものを見ます。

○高橋市長

水戸市もインスタは持っているのです。私も登録してあるのですが、今、インスタなのかね。

若い人たちの心に刺さる発信は何が一番いいかなといつも思いながら様々な工夫をさせていただいて、今、LINEが一番いいから、それを工夫する余地があるのかなと思っています。

情報発信のやり方については、いろいろと御提案をいただきましたので、参考にさせていただければと思います。

ありがとうございました。

○司会

市政モニターの皆様からの発表は以上となります。

皆様、ありがとうございました。

続きまして、市長から提言の総括、御挨拶を申し上げます。

○高橋市長

ありがとうございました。

様々御提言いただきまして、ありがとうございました。

また、皆様方に水戸市の至らないところも御指摘いただきました。私が分かっていた部分と私が分からなかった部分とあったものですから、大変失礼いたしました。

今日の気づきにつきましては、担当にしっかり指示をさせていただいて、すぐ明日からというわけにはいかないですが、予算とか、仕組みとか、制度とか、人員体制とか、あるいは、役所内だけでできる問題ではなくて、民間を巻き込まなければならないとか、そういうステークホルダーをいろいろ発掘しなければならないようなところもあるものですから、ちょっとお時間をいただいて、順次、解決を図っていければと思っています。

また、ハードについては、物をつくったりしなければならないものですから、時間がかかるものがあります。ですから、先ほど申し上げたとおり、今ある既存ストックをいかに有効に活用していくか。だから、今までの価値観にこだわらずに、もっと幅広く使えるだろうと。

今までは高齢者しか使わなかったけれども、そこを何とか子どものために時間と空間を配分させることは交渉でできると思うのです。高齢者の方々も、昔は、それを言うと、だめだ、俺たちのものなんだからみたいなことを言われたことがあったのですが、今はだんだんそういうのは変わってきましたから、今ある既存ストックをいかに活用して子どもたちのために使っていくかということ、そういった工夫も順次していければなと思っています。

ただ、いろいろな会合でも申し上げるのですが、水戸市はこのあたりの中核市であり、中心市なものですから、都市行政をやらなければならないくて、子育て支援の一本足打法ができません。ほかの自治体は、県庁所在地でもなければ、中心市でもなければ、中核市でもないものですから、例えば、完全に子育て支援だけどーんとやって、子育てはうちが一番だ、日本一だと言えるのですが、私たちはいろいろな社会インフラを整備したり、あるいは病院を抱えているものですから、このエリアの救急を守らなければならないというのがあって、そこに補助金をどんと出して、今の救急病院を支えているものですから、いろいろなところに予算を割り振らなければならないので、教育と子育てを一丁目一番地に据えさせていただいているのですが、皆さんの百点満点の満足がいくようなところにはなっていない。県庁所在地というのはいろいろなところから要望があるものですから、県庁所在地なのだから、このぐらいのものを持っていなければならないだろうとか、県庁所在地なのだから、こういうふうにしなければならないだろう、県庁所在地なのだからこういう役割と責任を果たせということで、水戸市民26万6,000人ばかりではなくて、このエリアの70万人の方々のいろいろなインフラを整備していかなければならないという宿命があるものですから、言い訳になってしまうのですが、皆さんの御要望を100%受けられないというのは申し訳ないです。

ただ、皆さんから一番要望がある子育て、教育、若者支援、これは一番大事なことで、将来の日本をしょって立つ、リードしていただく若い人たちをいかにきちんと育てていくか、若い人たちが集まるまちにしていくかということは非常に大事なことでありますので、今日、皆様方に言われたことを心して、反省点も込めながら政策に反映していきたいと思っておりますので、優しくも厳しく叱咤激励をいただければなと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

皆さん方にいろいろ御提言いただいたことに心から感謝申し上げて、私の御挨拶とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

○司会

以上をもちまして、市政モニター提言書発表会を終了いたします。

皆様、1年間、本当にありがとうございました。